

旭小学校保護者 様

旭小学校のあり方に関する現時点における市の考えについて

日頃より、市の教育行政および旭小学校の教育活動に対し、格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、旭地区のまちづくりにつきましては、他校に先駆けて旭小学校にタブレットを導入し特色ある学校づくりを進めるとともに、日常の移動手段がない高齢者へのタクシーチケット交付、3世代同居近居等への住宅改修費等支援、別枠予算による生活道路の優先整備など、住み良さを高め人口の維持増加につながるような様々な施策を展開してきました。しかしながら、都市計画法において市街化調整区域の開発行為は原則認められていないことから、今後も大きな人口増は望めず、令和12年度の旭小学校の新入生については5人との推計が出ている状況にあります。

そのような中、保護者や地域のみなさまから「旭・三輪野江地区の現在、そして今後の子どもたちの教育環境に不安がある」との声を多くいただいたことから、令和6年12月の「市長キャラバン」以降、「どこでも市長」や地域の行事等で保護者や地域のみなさまと1年をかけて意見交換を行い、広報よしかわ等でもお知らせしてまいりました。

この1年間、保護者のみなさまから最も多くいただいたご意見は「児童数が減少していること」と「クラス替えが出来ないこと」であり、その結果として「友達や教員との人間関係の固定化が起きていること」「社会性やコミュニケーション能力が身につけにくいこと」など、様々な影響が出ていることがあげられました。そして、今後の方向性として、①「旭小学校、三輪野江小学校をそれぞれできる限り存続する」、②「旭小学校と三輪野江小学校を東中学校に合併して小中一貫校にする」、③「近隣の関小学校や栄小学校に再編する」という大きく3つのご意見をいただいたことから、市ではこの3案を元にこれまで検討を進めてまいりました。

はじめに、①の「旭小学校、三輪野江小学校をそれぞれできる限り存続する」という案につきましては、「市内全域から児童を募集してはどうか」とのご提案があったところで

す。従来の通学区域にとらわれず市内のどこからでも希望者が就学できる小規模特認校という制度につきましては、二つ以上の学年で一つの学級が構成される複式学級を回避したい場合や地理的条件で統合が困難な場合に導入されることが多い制度ですが、保護者による毎日の送迎も必要なことから、旭小学校で全学年クラス替えができる最低人数である216人（36人×6学年）を超える児童の転入学は、全国の事例を見ても到底見込めず、持続可能な案ではないと考えました。

次に、②の「旭小学校と三輪野江小学校を東中学校に合併して小中一貫校にする」という案につきましては、旭小学校と三輪野江小学校の児童数を合わせてもクラス替えが出来る人数が確保されず課題解決に繋がりがづらいことや、小学生に合わせた校舎の大幅な改修が必要となることなどから、適当ではないと考えました。

次に、③の「近隣の関小学校や栄小学校に再編する」という案につきましては、令和13年度には市内全児童数が現在の約3900人から約1000人減少する中で、関小学校の児童にとっても、栄小学校の児童にとっても、良好な教育環境の維持においてメリットがあるものと考えました。組み合わせとしましては、地理的条件から旭小学校と関小学校、三輪野江小学校と栄小学校とし、まずは児童数が約100人の旭小学校と数年後には200人台になる見込みの関小学校から先行して統合し、比較的児童数の多い三輪野江小学校と栄小学校については、その後に児童数が一定程度減少した段階で統合するのが良いのではないかと考えたところでございます。

このようなことから、令和7年11月24日に開催しました市長キャラバンにおきましては、1年かけていただいた意見の中から最も持続可能で現実的な方向性として「旭・三輪野江小学校をそれぞれ関・栄小学校に再編する」という案について、保護者や地域のみなさまにお示しし、その案に対するご意見を伺ったところでございます。

様々なご意見を整理しますと、「子どもが新しい学校に馴染めるか」「通学はどうするのか」などを不安に思う意見が多くあった一方で、「地域の学校がなくなることは寂しいが子供たちの学校生活や将来的な影響を考えるとやむを得ない」旨の意見も多くありました。市といたしましては、統合する場合においては、教職員の異動も合わせて配慮すること、合同行事等で事前の頻繁な交流を行うこと、通学が困難となる児童にはスクールバスを検討することなど、新たな環境に不安なく移行できるよう子どもたちに寄り添って進めていく旨をその場でお答えしたところでございます。

旭小学校は創立150年を超える歴史のある学校であり、地域のみなさまにとってもコミュニティの中核的な場所です。また、小規模校にも「きめ細かな指導が行いやすい」「意見や感想を発表できる機会が多くなる」などの多くの利点があることも十分に承知しております。しかしながら、「集団活動・行事の教育効果が下がる」「社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい」「多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい」「バランスのとれた教職員配置が困難となる」など、利点を超えた数多くの課題が生じることから、市といたしましては、子どもたちの教育環境の改善を最優先に考え、現時点において、旭小学校と関小学校の統合が最善の案と考え提示させていただいたところでございます。

なお、その場合の時期につきましては、準備期間を要することから最短でも令和10年度以降と考えており、その後の校舎等につきましては、みなさまのご意見を丁寧にお聞きしながら有効活用を検討してまいります。

令和7年12月吉日

吉川市教育委員会